

小中連携による学力向上に向けた取り組み結果の公表

平成28年度
品川区立山中小学校

本校は伊藤学園と連携し、児童・生徒の学力向上のために対策を講じてきた。特に本校では3年生から理科、社会科において教科担任制授業を導入し、教師の専門性を生かした指導を展開している。伊藤学園とは児童生徒の学力についての情報を共有し、指導の改善に努めている。

国 語

7年生の調査結果から見られる5～7年生における課題	課題に基づいた5～7年生の目標	課題解決のための方策
<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の音読みや訓読みの違いを理解し、適切に使うことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生までの読み書きを定着させ、音読み、訓読みを理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字ステージ100に準拠したドリルを自校で作成し、練習の効率化を図る。 ・ステップアップ学習で、1年生からの漢字の定着を確認する。
<ul style="list-style-type: none"> ・文学的文章の読み取りは場面の移り変わりや、登場人物の読み取りなど、文脈から話の内容を理解することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の心情を本文に即して読み取れる。 ・展開に即して、文脈から話の内容を読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心情の変化を図に表すなど、読み取りを視覚化しながら捉えられるよう指導する。 ・文脈を正しく判断するためのキーワードを理解し、見付け出せる力を養う。 ・図書スタッフと連携して読書活動を推進し、数多くの作品に触れられるようにする。 ・単元構成を工夫し、教科書教材の他にも本を読みまとめる活動を組み込み、読書生活を豊かにする。
<ul style="list-style-type: none"> ・説明的文章では段落相互の内容を捉え、文脈を意識して読み取ることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文の構成や、筆者の主張、文章相互の関係を正しく読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容を大きくまとめながら読み、段落相互の関係を視覚で捉えられるように図に表す。 ・はじめ・中・終わり等の段落構成について意識しながら、説明文の内容や要旨を捉えられるようにする。
<ul style="list-style-type: none"> ・作文では、段落相互の関係を考え、二段落構成で書くことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理由や根拠を明確にするとともに、自分の考えを200字程度で書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えたことを文章にする機会を単元計画に意図的に取り入れ、自分の立場と考え方を明らかにして書く習慣をつける。 ・家庭学習でも作文を取り入れ、一定の文字数で内容をまとめたり紹介したりする活動を進める。

算数・数学

7年生の調査結果から見られる5～7年生における課題	課題に基づいた5～7年生の目標	課題解決のための方策
<ul style="list-style-type: none"> 数と式に関する問題の定着度が50%未満である。特に数の構成や大きさなどについて課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 数の大きさや構成を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な内容を反復練習する機会を設け、確実な習得を目指す。 既習事項を活用して、問題解決にあたる学習経験を積み重ねていく。
<ul style="list-style-type: none"> 数量関係の問題の定着度が約60%である。特に四則混合の計算に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算のしくみや性質を理解し、計算方法を定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動中に計算練習を多く取り入れ、計算方法を確実に定着させる。 家庭学習でも計算練習に定期的に取り組ませる。
<ul style="list-style-type: none"> 平行四辺形の対角線の特徴の理解及び、説明の仕方に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 平行四辺形の性質を理解し、説明できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 模型の操作をしたり、作図をしたりするなど、体験的に学び、形の性質を理解する。 ICT教材などを活用して、図形の構成を視覚的に捉えられるような教材を工夫する。
<ul style="list-style-type: none"> 資料の分析についての問題の定着度が50%である。特にグラフと割合の理解が十分ではなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 与えられたデータから割合を算出でき、それをもとに複数のデータを比較できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 割合の計算について、多くの問題に取り組み定着を図る。その上で、割合をもとにデータを比較する課題に取り組む。

社会

7年生の調査結果から見られる5～7年生における課題	課題に基づいた5～7年生の目標	課題解決のための方策
<ul style="list-style-type: none"> 5年生の履修内容（地理的分野の日本）の定着度は75%と比較的高いものの、6・7年生の履修内容（歴史的分野、公民的分野、地理的分野の世界）の定着度は56%～67%で、いずれも習熟基準を下回っている状態である。 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的分野および地理的分野の7年生の領域（世界の様々な地域）について、重点的に学力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な資料や地図を用いて、多面的に理解させることにより、知識を定着させる。 ただ知識を暗記するだけにならないよう、児童が感心をもてる教材を工夫する。 選挙結果を活用したり、裁判所に見学をしたり、実体験を学習活動に取り入れる。 選挙制度や政治について、児童会の活動との比較をさせて考える。 基本的用語を使えるように、レポートを作成したり、学習内容を要約させたりする。
<ul style="list-style-type: none"> グラフ・年表・地図などの資料から読み取る問題の正答率が低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> グラフ・年表・地図などの資料活用の技能の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図や写真、グラフや表から読み取る学習活動を意図的に取り入れる。 用語を正確に覚えたか、単元のテストから把握し、定着を図る。

理 科

7年生の調査結果から見られる5～7年生における課題	課題に基づいた5～7年生の目標	課題解決のための方策
<p>・「植物」の単元の問題の正答率は習熟基準を概ね満たしているが、「種子の違い」について定着度が下回っていることが課題である。</p>	<p>・観察を通して、種の特徴を捉え、理解する。</p> <p>・いろいろな種を見てちがいに ついて、理解する。</p>	<p>・用語や分類を正確に覚えるためワークシート等を工夫し、資料を正確に読む力を養う。</p> <p>・ハウセンカを中心に、いろいろな種を掲示しながら、特徴や違いを明らかにして、理解を図る。</p>
<p>・実験結果から考察する力・考えをまとめる力が不足している。きちんと考察させレポートにまとめさせる指導が必要である。</p>	<p>・実験結果をもとにして、きちんと考察させレポートにまとめさせる。</p>	<p>・学年を通してノート指導を統一し、実験結果の考察を書かせる。</p> <p>・少人数の班で考察を交流する場を設定する。</p>
<p>・「物質」や「エネルギーについて」など基本的な内容は理解できているが、応用的な内容については基礎を使いこなすことができていない。</p>	<p>・基礎の定着を十分に図り、応用力を身に付けさせる。</p> <p>・実験を通して、空気やものの重さについての知識や実験方法について理解する。</p>	<p>・ただ知識を暗記するだけにならないよう、児童が感心をもてる教材を工夫する。</p> <p>・実験結果だけでなく、実験の過程にも注目させ、問題・実験方法・まとめ・考察を詳しくノート等にまとめさせる。</p>
<p>・月の満ち欠けのようすや星座に対する知識などが課題である。</p>	<p>・校内で観察・実験できないような学習内容は、標本や視聴覚教材等を効果的に活用し、内容の定着を図る。</p>	<p>・月の形や星の配置など、ワークシートやICT教材を活用し、視覚的に理解できるようにする。</p> <p>・満ち欠けの性質についてモデル実験を通して理解させ、学んだ内容を活用できるようにする。</p>

【課題解決のための行動目標】

① 6年間の系統性を考えた指導

各学年の指導計画を踏まえ6年間の系統性及びその先の3年間を考えて指導し、学力の定着を図る。また、各教師の指導力を向上させることで、各教科の学力向上につなげていく。

② 基礎・基本の定着

漢字や計算は、繰り返しの学習が必要である。授業内に反復練習を行ったり、家庭学習で復習を行ったりし、小テストの実施により定着度の確認をしていく。習熟するまで繰り返し取り組み、基礎・基本の確実な定着を目指す。

③ 個に応じた学習形態の導入

習熟度別少人数学習、個別指導により、一人一人の学習状況を把握し、きめ細かな指導で確かな学力の定着を図る。また、一部で教科担任制を実施することにより、教師の専門性を生かした指導を行い、学力の更なる向上を図る。

④ 家庭学習の推進

1年生から6年生まで全学年で家庭に協力を仰ぎながら、家庭学習を習慣化させ、自学自習ができる力を身に付けさせる。PTAのまなざしシートの取り組みと連携させる。